引き出しの中の富士山

企画展

―視(み)て楽しむ、蒐(あつ)めて楽しむ―

2021年4月24日(土)～6月13日(日)　企画展示室

郷土史研究家・小林謙光氏のコレクション(静岡県富士山世界遺産センター蔵)をはじめコレクターの方にご協力いただき、絵はがきや登山案内、コインや切手、マッチ箱やタバコなど、引き出しに入るサイズの品々に描かれた「小さな富士山」を紹介します。デザインを視(み)て楽しむ、コレクションとして蒐(あつ)めて楽しむ、そんな富士山の魅力に迫ります。



絵はがき「仰ぎ見る銀嶺の麓 富士宮市」(5枚1組)より「神田橋の富士」
静岡県富士山世界遺産センター蔵(発行時期　大正7年～昭和8年)

富士山表口の歴史と信仰

特別展
(別途観覧料が必要です)

―浅間大社と興法寺―

2021年7月10日(土)～9月12日(日)　企画展示室



浅間大社と村山興法寺に伝来した資料を中心に、富士山表口の歴史と信仰について紹介します。当センターと富士宮市による初めての共催展で、文化財修復を行った絹本著色「富士曼荼羅図」(国指定重要文化財本)を初公開します。

前期:7月10日(土)～8月9日(月祝)
後期:8月14日(土)～9月12日(日)
※8月10日～13日は展示替えのため観覧いただけません。
※前期と後期で一部展示作品が異なります。

「富士曼荼羅図」富士山本宮浅間大社所蔵　※前期は原本作品、後期はレプリカを展示する予定です。

シリーズ江戸文化のなかの富士山Ⅳ

家康＋富士山

特別展
(別途観覧料が必要です)

―新発見「富士三保清見寺図屏風」をめぐる一考察―

2021年10月2日(土)～11月7日(日)　企画展示室

画中に、徳川家康や久能山東照宮を描いた現存唯一の作例である、新発見「富士三保清見寺図屏風」を、その成立の過程と史的意義を明らかにする最新の研究成果とともに初公開します。また、旧将軍家である徳川記念財団に伝来した作品を中心に、近年新たな知見が加えられた家康の肖像画なども合わせて紹介します。



作者未詳
「富士三保清見寺図屏風」
六曲一双
江戸時代(17世紀)
静岡県富士山世界遺産センター蔵

「荒ぶる山」富士火山の脅威を正しく知るために

企画展

―火山ハザードマップの改定―

2021年11月20日(土)～12月19日(日)　企画展示室





2021年3月、新たな研究成果・技術を反映した「改訂版富士山ハザードマップ」が公開されました。本企画展では、富士山の脅威を正しく知るために、御嶽山、雲仙岳等の噴火写真や被災資料のほか、富士山の立体映像や過去3000年分の噴火地層を剥ぎ取った長大な試料を展示し、ハザードマップ改定のポイントを解説します。

上:三宅島1983年噴火で流出した溶岩(「記録 昭和58年三宅島噴火災害」:東京都、1985)
下:雲仙普賢岳1993年噴火で発生した火砕流(防災科研 中田節也氏提供)

収蔵品展

富士のことほぎ

企画展

2022年1月1日(土)～2月6日(日)　企画展示室

富士山は日本一の高さを誇る山であり、崇高で美しいその姿から縁起の良い画題として尊ばれてきました。その富士山を和歌や漢詩で賛美する画賛は、まさに新春に相応しい慶賀性を備えています。本企画展は、館蔵の画賛作品を中心に、浮世絵や引札類に描かれたお正月定番の富士山に加え、個人蔵の工芸品などから「めでたさの象徴」としての富士山の姿を紹介します。



土佐光貞画・日野資枝賛「四時富士山図」静岡県富士山世界遺産センター蔵

絶景・秀景富士山世界遺産写真コンテスト入賞作品展

企画展

2022年2月23日(水祝)～3月27日(日)　企画展示室

静岡県富士山世界遺産センター、静岡県観光協会、NHK静岡放送局が主催する「絶景・秀景富士山世界遺産写真コンテスト」の、静岡県から撮影した富士山の写真「絶景しずおか富士山部門」、全国各地のふるさと富士(見立て富士)の写真「秀景ふるさと富士部門」、それぞれのグランプリ作品をはじめ入選作品を紹介します。



第10回秀景ふるさと富士写真コンテスト　デジタル部門最優秀賞
「ダイヤモンド剣ヶ峰」宇田川洋二氏　伯耆富士・出雲富士(大山)